

第二章 実験・調査概要

2-1 赤を用いた「色彩参画」による景観形成実験

2-1-1 実験概要

本研究では、景観形成の場面に市民が参画するために、『百^{ひゃく}彩^{さい}創^{そう}装^{そう}』というタイトルで赤を用いた「色彩参画」による景観形成実験のイベントを実施した。この実験は市民が「色彩参画」によって、自宅の前に飾りつけを行うことで、街路景観を形成し、街並みの景観を捉えなおすことを目的としている。

実験は2005年8月14日に彦根市高宮町で行われた『サマーフェスティバル in たかみや～中山道高宮宿の夏まつり～』の一環として行った。

本研究の実験では、「色彩参画」によって街路に飾り付ける色を「赤」と定めた。これは、江戸時代の彦根城主である井伊直政の「井伊の赤備え」などといったように彦根市の歴史的な色が「赤」であることと、「色彩参画」による景観形成実験は高宮町の夏祭りと同時に行ったために祭りの雰囲気を表すための2点が理由である。

以後、単に「実験」と表記した場合も赤を用いた「色彩参画」による景観形成実験を意味するものとする。

2-1-2 街路の飾り方

街路の飾りつけは、地域住民による飾りつけと筆者らによる飾り付けによって行った。地域住民による街路の飾りつけは、各人の家の前に家庭にある「赤いもの」を飾ることによって行った。このとき、「『赤いもの』であればなんでも！！ご家庭にある「赤いもの」であれば何でも飾ってください。例)Tシャツ、座布団、ポット、カサ、おもちゃ、帽子、人形、エプロン、ハンカチなど」¹⁾と依頼を行い、飾るものや飾る数などは指定せずに、Tシャツやポット、バケツなどを自由に飾るように指示をした。これは、地域住民が自由に飾り付けを行えるようにするためである。多くの地域住民が容易に実験へ参画できるようにすることと、より主体的に実験へ参画できるようにすることを狙いとしている。

筆者らによる街路の飾りつけは、対象地域の中山道上にたつ電信柱と街路灯に赤い布を巻きつけることによって行った。このとき、電信柱用には110 cm×200 cm、街路灯用には50 cm×110 cmの赤のカラーブロードを使用した。対象地域で生活をしていない著者らも飾り付けに参画した理由は、著者らが飾り付けを行うことによって、飾り付けを行う地域が明確になり、地域住民に飾り付けやすくさせることを狙いとしている。

「色彩参画」前

「色彩参画」後

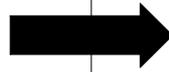
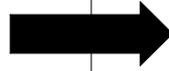


図 2-1 「色彩参画」による景観形成実験の様子

2-2 実験対象

2-2-1 実験対象地域の選定

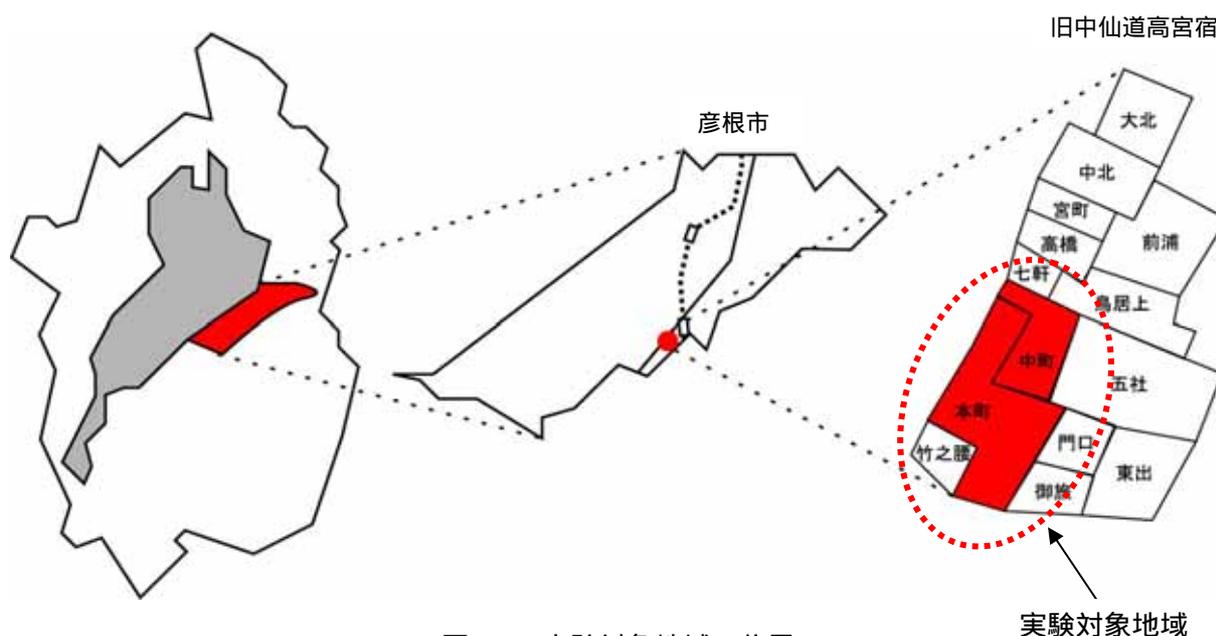
彦根市近郊の旧中山道宿を対象に実験依頼を行った。滋賀県彦根市鳥居本町(旧鳥居本宿)、滋賀県犬上郡豊郷町(旧豊郷宿)、滋賀県彦根市高宮町(旧高宮宿)の計3地域に依頼したが、実験の受け入れは彦根市高宮町(以下、高宮町)のみであり、他の2地域については、実験が大規模となることが予想されること、中山道沿いに民家が少ないことなどを理由に実験は受け入れられなかった。高宮町で実験の実施が可能であった理由は、毎年8月に『サマーフェスティバル in たかみや～中山道高宮宿の夏まつり～』を行うために、実験を夏祭りのイベントの一環として実施することが可能であるためである。

そのため、本研究では高宮町を実験対象地域とする。なお、高宮町の全ての自治会が旧中山道に沿っているわけではないために、実験は高宮町内の本町と中町の両自治会に面した旧中山道(約500m)で行うこととした。

2-2-2 実験対象地域概要²⁾

高宮町は滋賀県の湖東地域、彦根市の西の端に位置し、平成17年10月末現在、2427世帯、人口6206人(男:3190人 女:3016人)の町である。現在の高宮町は江戸時代には近江国犬上郡高宮村であった。江戸時代に中山道六十七宿の六十四宿目³⁾とされた歴史ある町である。

本研究の実験を行う本町と中町の両自治会は高宮町内に位置し、旧中山道と接している地域である。この地域は旧中山道の宿場町として栄えた歴史ある地域である。その趣は現在も残っており、歴史ある建物と現代の建物とが連なって建つ商店街となっている。



2-2-3 実験対象者概要

本研究では、実験結果の分析段階で実験対象者の分類を円滑に行うために、赤を用いた「色彩参画」による景観形成実験の対象者と非対象者を居住地によって明確に分類した。

実験の対象者は、実験を行う中町または本町に家を持つ地域住民のみとする。例え、高宮町の住民であっても、中町または本町に居住していない場合は実験の対象者とししない。

なお、本研究で実施する「色彩参画」による景観形成実験への参画世帯数は55世帯である。

2-3 調査対象

2-3-1 調査対象者の選定

本研究では、高宮町の地域住民を調査の対象とする。

なお、実験への参画の有無による街路景観に対するイメージ変化の差を把握するために、あらかじめ赤を用いた「色彩参画」による景観形成実験へ参画した地域住民と参画しなかった地域住民の2つのグループに分類することが出来るように調査対象者を選定した。

以後、実験へ参画した地域住民を参画者、実験へ参画しなかった地域住民を不参画者と表現する。

2-3-2 調査対象者概要

参画者としては、2-2-3で説明を行った実験対象者を選定した。不参画者としては、高宮夏まつり実行委員会か高宮学区連合自治会のどちらかに在籍する地域住民を選定した。不参画者は、彦根市高宮町の地域住民ではあるものの、中町・本町に家を持たないため、実験対象者ではない。

不参画者に高宮夏まつり実行委員会と高宮学区連合自治会のどちらかに在籍する地域住民を選定した理由は、どちらの団体も『サマーフェスティバル in たかみや～中山道高宮宿の夏まつり～』の運営に対して、中心的な役割を担っている団体であるために、実験によって飾り付けられた街路を目にすることが予想されるためである。

表 2-1 調査対象者概要

	参画者	不参画者
対象	中町・本町の地域住民	夏まつり実行委員会 高宮学区連合自治会
内容	実験対象者	実験対象者以外の 地域住民

2-4 実験・調査の流れ

本研究で行う実験・調査の流れと内容を以下に示す。

本研究では、赤を用いた「色彩参画」による景観形成実験の影響を明らかにするために、実験前後にアンケート調査を行い、街並みの景観イメージと景観認識を調査する。

実験前のアンケート調査によって、現状の調査対象者の街並みに対して抱く景観イメージと景観認識を探る。そして、実験後にもアンケート調査を行うことによって、調査対象者の抱く街並みに対する景観イメージと景観認識の変化を明らかにする。

なお、調査にあたり、実験前に説明日を設け実験の説明と同時に実験前後に行う街路景観イメージ調査への協力を依頼した。

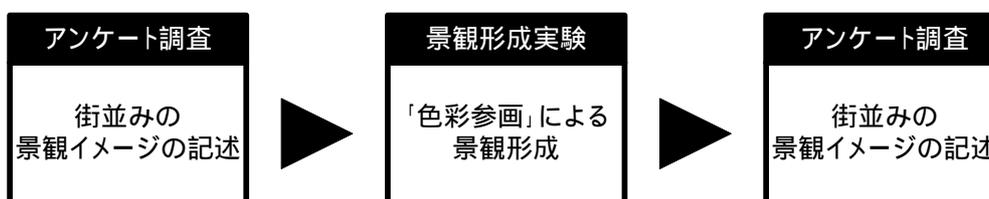


図 2-4 実験・調査の流れ

表 2-2 実験・調査の流れと対象者の動き

	実験の流れ	調査の流れ	調査対象者の作業
説明日	実験への協力依頼	事前・事後アンケート調査票配布	事前アンケート記入
	実験内容説明	アンケート調査説明	飾り付けるものの決定 (参画者のみ)
実験日	景観形成実験開始	写真・ビデオ撮影	街路の飾りつけ (参画者のみ)
			事後アンケート記入
回収日		アンケート調査票回収	

2-5 景観イメージ及び景観認識に関するアンケート調査

2-5-1 調査概要

本研究では、調査対象者の抱く景観イメージと調査対象者の景観認識及び実験への関心を把握するために、実験を行う前後にアンケート調査を行った。本研究における景観イメージとは、対象地域の街並みの雰囲気を目指す。また、本研究における景観認識とは、対象地域の街並みからイメージする色と、街並みへの関心を指す。アンケート調査は実験前に行う事前アンケート調査票と実験後に行う事後アンケート調査票を用意した⁴⁾。

事前アンケート票と事後アンケート票の両アンケート調査票で共通するアンケート調査項目は、景観イメージに関するアンケート調査項目、景観認識に関するアンケート調査項目の2つの調査項目である。

事前アンケート調査票には、上記の2つの調査項目の他にフェイスシートを追加した。事後アンケート調査票には、上記の2つの調査項目の他に実験への関心に関するアンケート調査項目を追加した。

事前アンケート調査票、事後アンケート調査票に用いたアンケート項目を表2-3に示す。

表 2-3 実験前後のアンケート調査項目

	事前アンケート調査票	事後アンケート調査票
景観イメージに関する項目		
景観認識に関する項目		
実験への関心に関する項目	×	
フェイスシート		×

：アンケート調査項目あり

×：アンケート調査項目なし

本研究では、調査対象者の属性と景観イメージの関係を明らかにするためにフェイスシートを用意した。フェイスシートは、調査対象者の性別に関する項目と年代に関する項目、職業に関する項目からなる。

景観イメージに関するアンケート調査項目は、SD法(Semantic Differential method)を用いた景観イメージに関する項目からなる。詳細は「2-5-3 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目」にて説明を行う。

景観認識に関するアンケート調査項目は、街並みをイメージする色に関する項目と街並みへの関心に関する項目からなる。詳細は「2-5-4 景観認識に関するアンケート調査項目」にて説明を行う。

実験への参画の度合いに関するアンケート調査項目は、実験への参画度に関する項目と実験を見たか否かの項目からなる。詳細は「2-5-5 実験への参画の度合いに関するアンケート調査項目」にて説明を行う。

2-5-2 景観イメージ調査手法の検討

景観のイメージを分析するためのいくつかの調査手法について検討を行った⁵⁾。

表 2-4 イメージ調査手法の比較

調査手法	内容	メリット()	デメリット(x)
インタビュー	インタビューによって調査		具体的なエピソードなどを交え、イメージが詳細に表れる。
		x	調査に時間がかかり、多くのデータを揃えづらい。
認知マップ調査	自由に空間要素を描く		要素間の相互関係を直感的に表現できる。
		x	被験者の能力に左右され、結果の分析も難しい。
SD法	形容詞対による尺度を用いて測定		量的データとしてイメージを得ることが出来る。
		x	形容詞対の選定によって結果が左右される。
自由記述	設問に対して自由に記述		項目によって左右されないために、記述の自由度が高い。
		x	被験者の能力に左右され、記述の質に差が出る。

本研究では、「色彩参画」による景観形成実験を行い調査対象者の抱く景観イメージを調査する。

調査対象が一般的な地域住民であるため、自由記述法や認知マップ調査のような特定の能力に結果が左右される手法は適当ではない。インタビュー調査は調査に時間がかかるために、実験の前後に行うことは難しく、多くのデータを揃えることも期待できない。そのため、本研究においては適当な手法ではない。

本研究で用いるイメージ調査手法は、短時間でイメージ調査を行うことができ、さらに多くのデータを得られる手法であることが必要である。また、調査対象者の抱く彦根市高宮町の景観イメージと乖離しない形でイメージを把握できる手法であることが必要である。そのため、本研究では、景観イメージを調査するための手法としてSD法によるアンケート調査を用いる。

SD法のメリットは、量的データとしてイメージを得ることが出来る点にある。つまり、「言語による尺度を用いて心理実験を行い、その分析を通して、ある『概念』の構造を定量的に」⁶⁾明らかにすることができる点である。また、短時間で回答できる手法であり、多くの調査対象者によるアンケート調査への回答結果を得ることが期待できる。

2-5-3 街並みの景観イメージに関するアンケート調査

本研究では、赤を用いた「色彩参画」による景観形成実験を行う前後の調査対象者の抱く高宮町の景観イメージを把握するために、SD法を用いた街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目を用意した。SD法とは、「空間の 雰囲気 のような全体的な心的反応を、用意した多くの評定尺度上の量として回答してもらう方法」⁷⁾である。

街並みの景観イメージに関するアンケート項目を図 2-5 に示す。

本研究では、SD法による景観イメージの調査を、「色彩参画」による景観形成実験の前後に行うことによって、「色彩参画」が景観イメージに与える影響を調査する。本研究で用いる 20 対の形容詞による評価尺度は、「色彩参画」による景観形成実験に参画することによって変化すると予想される、街並みの活気、統一感及び街並みへの親近感のイメージに関する形容詞対を考慮しつつ、景観のイメージを基に研究を行っている既往研究⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾を参考に選定した。

なお、街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目は、事前アンケート調査票と事後アンケート調査票に共通して含まれているアンケート調査項目である。

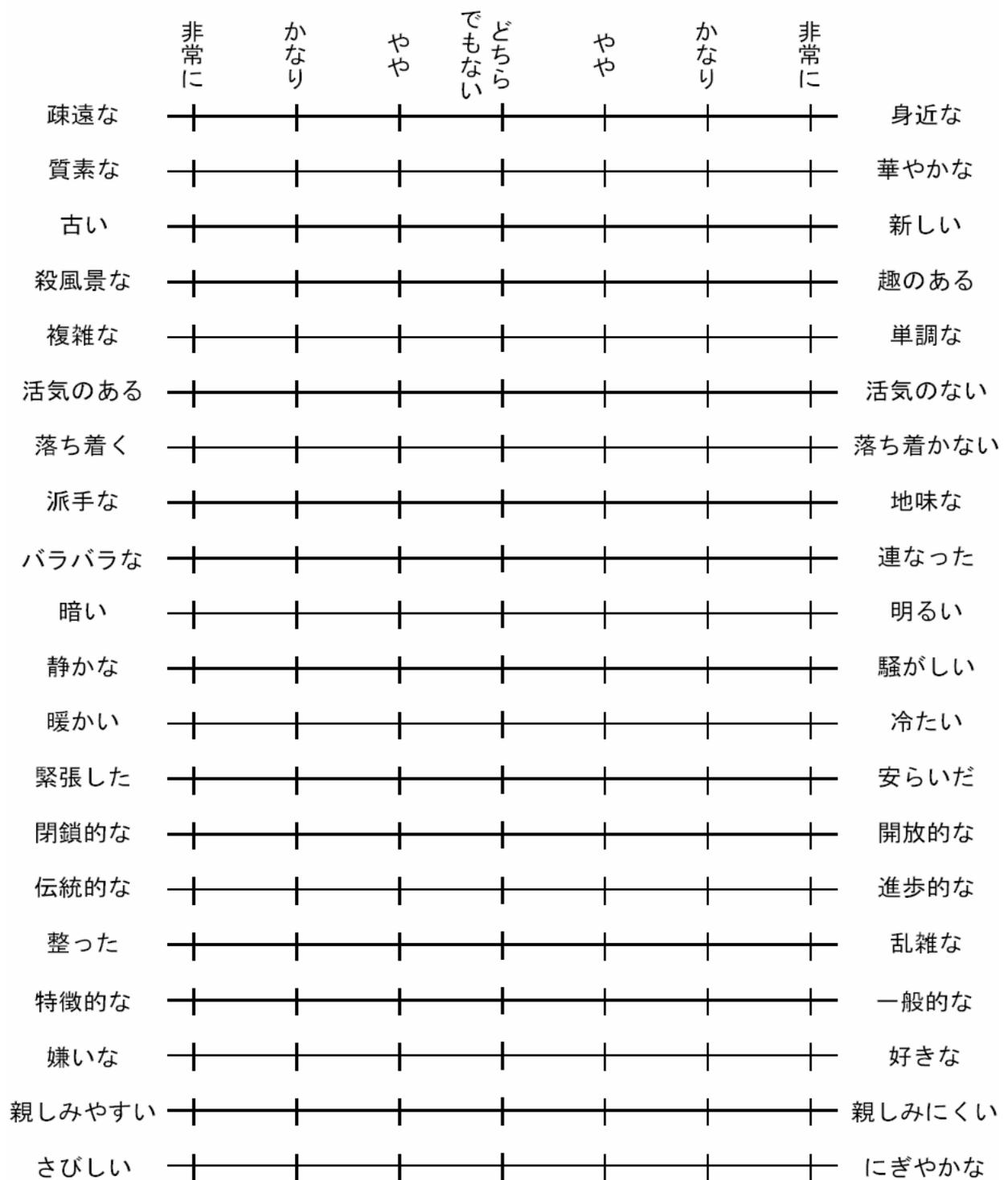


図 2-5 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目

2-5-4 景観認識に関するアンケート調査

本研究では、赤を用いた「色彩参画」による景観形成実験を行う前後の調査対象者の景観認識を明らかにするために、景観認識に関するアンケート調査項目を用意した。景観認識に関するアンケート調査は、街並みをイメージする色に関する項目と街並みへの関心に関する項目からなる。

なお、景観認識に関するアンケート調査項目は、事前アンケート調査票と事後アンケート調査票に共通して含まれているアンケート調査項目である。

本研究では、調査対象者の景観認識を街並みをイメージする色と街並みへの関心の2つの調査項目によって明らかとしていく。「伝統的な町や集落には、その町、集落に固有の色があるといわれている。」¹¹⁾とあるように、色彩は街並みの景観を作り出す大きな要因の一つである。そのため、調査対象者の抱く街並みをイメージする色を分析することは、景観認識を調査する上で必要な項目であると考えられる。

また、街並みへの関心へ回答される景観要素は、調査対象者の景観認識の中で重要な景観要素であると考えられる。そのため、街並みへの関心を分析することは、景観認識を調査する上で必要な項目であると考えられる。今後、調査対象者の街並みへの関心タイプと街並みをイメージする色を総称して景観認識と呼ぶ。街並みへの関心タイプについては「3-1 分析の流れ」において説明する。

街並みをイメージする色に関する項目は、街並みをイメージする色とその理由を回答する形式とした。これにより、調査対象者の景観認識を理由とともに色で把握することができる。街並みへの関心に関する項目は、関心のある景観要素とその理由を回答する形式とした。これにより調査対象者の景観認識を基とした重要と感じる景観要素を理由とともに把握できる。

街並みをイメージする色に関する項目への回答形式は、イメージする色とその理由を自由に記述する形式で調査を実施した。これは、調査対象者の回答するイメージする色をあらかじめ予測することが不可能であるためである。また、選択項目にすることで多様な回答を得られることを期待したためである。

街並みへの関心に関する項目への回答形式は、関心のある景観要素とその理由を自由に記述する形式で調査を実施した。これは、調査対象者の回答する街並みの景観要素をあらかじめ予測することが不可能であるためである。また、自由記述形式にすることで多様な回答を得られることを期待したためである。

街並みをイメージする色に関する項目を表 2-5 に、街並みへの関心に関する項目を表 2-6、表 2-7 に示す。

表 2-5 街並みをイメージする色に関する項目

内容	街並みをイメージする色
質問	高宮の街並みでイメージする色は何色ですか？
方法	自由記述
記述内容	色、理由

表 2-6 街並みへの関心に関する項目

内容	街並みへの関心(選択)
質問	高宮の街並みで変えたい場所、守りたい場所はありますか？
方法	一つ選択
回答項目	ある
	ない
	その他()

表 2-7 街並みへの関心に関する項目

内容	街並みへの関心(自由記述)
質問	高宮の街並みで変えたい場所、守りたい場所はどこですか？
方法	自由記述
記述内容	場所、理由

2-5-5 実験への関心に関するアンケート調査

本研究では、赤を用いた「色彩参画」による景観形成実験への関心と景観イメージの関係、景観認識との関係を明らかにするために実験への関心に関するアンケート調査項目を用意した。実験への関心に関するアンケート調査は、実験への参画度に関する項目と実験を見たか否かの項目からなる。

本研究では、実験への関心を実験への参画度の調査項目によって明らかとしていく。実験への参画度に関する項目は「色彩参画」によって街並みに飾り付けた数量と飾り付けた種類を回答する形式とした。これにより、参画者の実験への参画の度合いを飾ったものの数量と種類数で把握することができる。

実験を見たか否かの項目は、赤を用いた「色彩参画」による景観形成実験により飾り付けた街並みを目にしていない調査対象者を判別するために設けた。本研究では、不参画者も赤を用いた「色彩参画」による景観形成実験により飾り付けられた街並みを目にすることを考慮しているために、飾り付けた街並みを目にしていない調査対象者を把握するためである。

なお、実験への関心に関するアンケート調査項目は、事後アンケート調査票のみにしか含まれていないアンケート調査項目である。

実験への参画度に関する項目への回答形式は、「色彩参画」によって街並みに飾り付けた数量と飾り付けた種類を自由に記述する形式で調査を実施した。これは、調査対象者が街路に飾り付けるものをあらかじめ予測することが不可能であるためである。また、選択回答形式とすると選択項目に影響され、実験当日に街路に飾られるものが限定されることが考えられるためである。

実験を見たか否かの項目を表 2-8 に、実験への参画度に関する項目を表 2-9、表 2-10 に示す。

表 2-8 実験を見たか否かの項目

内容	実験の様子を見たか否か
質問	百彩創装(赤いものが飾られた中山道)を見ていただけましたか？
方法	一つ選択
回答項目	見た
	見てない
	その他 ()

表 2-9 実験への参画度に関する項目

内容	実験への参画度(選択)
質問	道に何か赤いものを飾っていただけましたか？
方法	一つ選択
回答項目	飾った
	飾らなかった
	その他()

表 2-10 実験への参画度に関する項目

内容	実験への参画度(自由記述)
質問	どこに何を飾られましたか？
方法	自由記述
記述内容	飾ったもの、飾った数、飾った場所

脚注及び参考文献

- 1) 実験対象者への依頼書より抜粋。実験対象者への依頼書は巻末の付録を参照
- 2) Hikone City：人口の概要
<http://www.city.hikone.shiga.jp/shiminkyoseibu/shimin/jinko.html> , 2005-11-17
- 3) 彦根城博物館編：江戸時代の高宮 在郷町の歴史 , p.2, 彦根市教育委員会(2001)
- 4) 調査票は巻末の付録を参照
- 5) 日本建築学会編：建築・都市計画のための調査・分析方法, 株式会社井上書院(1994)
- 6) 日本建築学会編：前掲書, p.65, 株式会社井上書院(1994)
- 7) 日本建築学会編：前掲書, p.65, 株式会社井上書院(1994)
- 8) 絹原一寛・他,：歴史的街並みを持つ地方都市に対する出身者の景観認識に関する研究
兵庫県出石町を事例として, 都市計画論文集, (36), 739-744(2001)
- 9) 谷口小百合・他,：庭園景から受ける癒しのイメージに関する調査研究,東京農大農学集報 48(3),
115-127(2003)
- 10) 川崎雅史：港湾空間のイメージ分析 メディアイメージと現地イメージの比較分析 ,土
木計画学研究・論文集, (5), 99-106(1987)
- 11) 景観デザイン研究会：景観用語辞典, p.53, 株式会社彰国社(2005)